

# むつみ

第36号 平成4年1月20日  
「新年号」



相馬東部地区

福島県土地改良団体職員連絡協議会

平成四年度の政府予算対策には皆様方の代表より陳情を頂き予算の確保に努めて参りました。今後の各県毎予算の配分につきましてはご期待に沿うよう頑張りますのでご安心を願います。私事で恐縮に存じますが、昨年八月衆議院本会議におきまして永年勤続在職議員として表彰を受けました。これ一重に日頃から皆様方のご支援並びにご厚情の賜と厚く御礼を申し上げます。

の低迷等色々と厳しい年となること  
と思いますが新しい年の抱負を胸に  
飛躍の年として頂きたいと思います。  
最後になりましたが会員の皆様方  
のご健勝とご発展を祈念いたしまし  
て新年のご挨拶といたします。

本協議会も会員各位のご協力により  
十六年目を迎えることができました。  
昨年七月には農村整備研修会を  
開催いたしました。これで、農業生産  
の活性化と、農村の整備が進むことを  
確実に実現することができました。

訴えるため啓蒙活動することを決議されました。平成三年度の総会は福島市飯坂温泉ホテル聚楽会議室において

候補者の必勝を期して応援をお願いする次第であります。

# 新年の御挨拶

会長伊東正

会長 佐原正秀

**新年の御挨拶**

会長  
佐原正秀

訴えるため啓蒙活動することを決議されました。平成三年度の総会は福島市飯坂温泉ホテル聚楽会議室にお候補者の必勝を期して応援をお願いする次第であります。

ます。会員の皆様には好天に恵まれた穏やかなお正月を新たな希望を胸に迎えられたこと、お慶び申し上げます。昨年は世界的にも国内的にも非常に波乱の多い年でありました。湾岸戦争、ソ連邦の崩壊、国内では雲仙普賢岳の火砕流の発生、相次ぐ台風による被害の増大、長雨低温日照不足による農業所得の低迷等農家の皆様にとりましては多難な一年であったかとお見舞い申し上げます。

平成四年度の政府予算対策には皆様方の代表より陳情を頂き予算の確保に努めて参りました。今後の各県に沿うよう頑張りますのでご安心を願います。私事で恐縮に存じますが、昨年八月衆議院本会議におきまして永年勤続在職議員として表彰を受けました。これ一重に日頃から皆様方のご支援並びにご厚情の賜と厚く御礼を申し上げます。

二、新年の御挨拶……………

三、初詣で雑感……………

四、土地改良区と私……………

五、我をふり返って……………

六、市街地に清流を……………

七、自分の年にもう一度挑戦……………

八、できるかな……………

九、農村空間利活用促進農道整備  
新しい事業を紹介されて

一〇、「サル年」回顧……………

一一、土地改良区の歩みと共に……………

この一年心を新たにいろ

愛とムチで今世相と共に思いつくままに

会長	伊東正義
会員	佐原正秀
我孫子慶一	
(伊達西根塙土地改良区)	
巴 恵美子	
(安達疏水土地改良区)	
渡部千恵子	
(月形中野土地改良区)	
伊藤一美	
(安積疏水土地改良区)	
小田部厚子	
(阿武隈川上流土地改良区)	
緑川いずみ	
(社川沿岸土地改良区)	
佐藤匡孝	
(塙町土地改良区)	
(表郷村土地改良区)	
須藤真代	
(会津北部土地改良区)	

一四、所感の一端	皆で農業農村整備事業を推進	(相馬市土地改良区)	今野宗夫
一五、コメ	新しい感覺で村づくりを	(土 地 連)	景井仁志
一六、平成四年申年を迎えた私の抱負	魅力ある農地の基盤造りを	(土 地 連)	渡辺敏雄
一七、還暦で思うこと	ヤセッポでは美人ではない	(土 地 連)	笹原昭治
一八、娘と豆台風	娘と孫どちらが?	(土 地 連)	藤嘉則
一九、壬申の年に	大乱の年とならないように	(土 地 連)	佐藤嘉則
二〇、県外研修	埼玉県羽生領用悪水路土地改良団	(事 務 局)	大島孫三郎
二一、会員名簿	埼玉県羽生領用悪水路土地改良団	(事 務 局)	
二二、土地改良区対策アンケート調査結果報告	各道府県土地改良事業団体連合会から	(事 務 局)	
二三、「表紙」県営ほ場整備事業	平成四年一月一日現在	(事 務 局)	
二十四、編集子	相馬東部地区の概要	(事 務 局)	

1

九

## 一二、土地改良区と自分…………… 鈴木誠智 ほ場整備からかん排へ

益々のご発展とご多幸を祈念いたしまして新年のご挨拶といたします。  
謹賀新年

新春を

左藤芳久 土地連幹事 左藤正雄 会津

						幹事		副会長	会長	顧問
鈴木 和意	宮坂 正孝	佐藤 匡孝	瀬谷 輝勝	根本 博	石幡 信知	菅野 常雄	蛭田 昭八	佐久 和子	佐原 正秀	佐藤 芳久
磐梯 西部	矢吹 原	塙 町	母畠 地区	安積 疏水	積	伊達西根堰	土地連	相馬 市	会津北部	専土 務理 事連
	"	"	監査員	"	"	"	"	"	"	幹事
	部 忠弘	稲葉 正	鈴木 尚	三浦 康司	石川 良男	柳内喜久子	酒井 京子	渡部 公三	小林 甫	佐藤 正雄
	安積 疏水	愛谷 堰	熱塩加納村	"	土地連	小さい わき 町市	広野 町	只見 町	門田 堰	会津高田町

初詣で雑感

伊達西根堰土地改良区  
我孫子  
慶

明けましておめでとうございます。会員の皆様方もつづが無く新年を迎えたことと存ります。平成は早くも四年となり私も四回目の年男を迎え

在に至り何回目(?)かの年女になりました。  
採用当時は、右向いても左向いて  
も判らない事ばかりで、土地改良区  
の皆さんに大変ご迷惑をかけました。  
昨年は初めて業務研修会に出席し、  
会員の皆様と懇親を深めて参りました。

現状です。昨年当地区は、代かき期に水か不  
由により未収賦課金が増加していま  
す。一件でも多く未収金を徴収して  
こようと意気込んで地元に行くので  
すが、帰途はいつも失望してしまって  
影響を及ぼしています。経済的な理  
由に厳しいものがあり、私の仕事にも  
影響を及ぼしています。経済的な理

我をふり返つて

月形中野土地改良区  
渡部千恵子

新春おめでとうございます。  
静寂な一時、東の空から鮮やかな  
初日の出が昇り、その美しさに心が  
きれいに洗い流され、清められた気  
持ちです。

一年とは何と早いのでしょうか。  
土地改良区の職員になりましてから、  
あわただしい毎日の繰り返しで、時  
の過ぎていることなど、まして三年  
が過ぎたなど忘れておりました。

今から百十余年前人影まばらな安積地方に、満々たる猪苗代湖水を東注し、次第に緑の沃野へと変えていった安積疏水の事業は、いかに時の利、地の利を得たとはいえ、多くの名も無き人々の苦労の賜だと思う。明治政府が樹立し白河以北一山百文などと言われたが、刀を捨てこの荒地を

安積疏水土地改良区 伊藤一美

## 市街地にも清流を

とにかく覚えるのに無我夢中の月日でした。最近は仕事の内容にも慣

当初をふり返つてみますと、個人の財産がからんでいる仕事など全く初めてのことと、神経質になりすぎてしまい、とまどいと不安で地が足についておらず、ストレスはたまるとし、前もって大変な仕事だということは聞いていたのですが、実際自分でやってみて、本当の大変さがわかり、やめようと思ったこともあります。が、もう一人の方に励まされ、支えられて今の自分に至ったよう思います。

皆様 明けましておめでとうござ  
ります。

# 土地改良

# 土地改良区と私

今から百十余年前人影まばらな安積地方に、満々たる猪苗代湖水を東注し、次第に緑の沃野へと変えていつた安積疏水の事業は、いかに時の利、地の利を得たとはいえ、多くの名も無き人々の苦労の賜だと思う。明治政府が樹立し白河以北一山百文などと言われたが、刀を捨てこの荒地を

一鋤ごとに鋤き均した人々が郡山の  
基を造ったのだと思つてゐる。

昭和三十年代から機械の導入が進  
み、また圃場整備事業により点在し  
ていた小さな田がまとまつた所に大きくなつた。水路も舗装化され便利  
になつたが、逆に集落の連帶意識が  
薄らぎ、それと併行して水の汚濁が

方も全部神様が叶えてくれるとは思つていないから願い事が叶わなくとも問題にはならないようである。

る西根神社が飯坂にあり小学四年生の教科書にも載つていて子供達も勉強に来ています。私も毎年大晦日から元旦にかけて初詣での準備や御祓

方も全部神様が叶えてくれるとは思っていないから願い事が叶わなくとも問題にはならないようである。



表郷村土地改良区 滝田国男

会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。輝かしい新年をお迎えのこととご察し申し上げます。

返るとその都度懐かしい人生の節があつたようを感じられます。

一度目は、大人扱いされる二十才。乗り物運賃が大人料金で取られ、特に私は背丈が小さかった（今は標準）ので子供料金でも通用しそうなもので、もつたいたく思つたものでした。でも、中学生となりツメ衿の制服を着たときの緊張感は、今でも鮮明に覚えています。高度成長期の中で、カラーテレビに自家用車等が家にも入り、タイガースの「花の首飾り」やジローズの「戦争を知らない子供たち」などが流行し、自宅前では、大型ブルドーザが水田のは場整備に爆音を響かせていました事が想い出されます。

二度目はいわゆる『結婚適齢期』の二十四才。誰でもがとおる人生の

バラ色の時期。私もその真っ只中にいまして、女三人姉妹の最後の“トリデ”と恋愛中で、結婚できるかはたまた破局かと、村内でも話題になる程で、『東ちづる』と肩を並べたカモ？。あれから十年以上の歳月が過ぎましたが、今でも親の前でタタミに正座し、頭を下げ結婚を許してもらおうとした姿を想い出すと背筋がピーンと張ってきます。努力が報われ長女が家に戻ってくれ一件落着となつたわけですが、人生を左右する一場面だったと思います。

平成四年。三度目を迎えたわけですが、年齢的にも社会人としても中堅となり、心新たに新年を迎えました。『日光サル軍団』が脚光を浴びてのサル年。訓練というか教えないのか、言葉の通じないサルへの心と愛とムチは、何か今の世相と共に通するように感じ取れます。言葉では通じない（理解されない）相手に、何が一番必要なのかということが。

機関紙「むつみ」の寄稿依頼文書を頂いた時は、以前十年勤続受賞者としての所感を述べ寄稿したこともあって、後はまわってこないだろうとすっかり安心しきっていましたので、折り込まれた原稿用紙を見たときは、悪い予感におののぎながら挂見したのでした。何をどう書きまとめればよいのか、明日書こうと日を延ばし、ただただ戸惑い焦燥するだけ期限は刻々と迫り「忙しいから。いろいろあって。」とでも弁明してお断りすればそれまででしょうが、編集を担当なさっている方々の御苦労を察すれば、たとえ文法上にそぐわないまとなりのない文面でも改めて過去を振り返り自己を見つめ直す好機会を再度お与えいただけたと思えば、これも「年女」の私にとって飛躍の年になるのではとほのかな期待にも似た思いをよせ、改めて機関紙「むつみ」に深く感謝しているところです。

長いようで短く起伏に富んだこの十四年間を回想し思い出の一面に触れ、思いつくままのことを記し責を果たしたいと思います。

一年間の臨時期間を経て五十四年四月庶務係職員として採用されました。当時、Uターン組の一人で土地改良事業の内容はおろか改良区の存在すら全く知るすべもなく職務に携わり、ただ与えられた日新しい仕事を精一杯とにかく間違いなく最後までやり遂げる様にと気を配りながら無我夢中で仕事を続けてきました。

役員の方の顔と名前が一致せず議事録を書くのに誰の声か何を話しているのか何度もテープを聞き返し、完成したときの喜びは誰にも言えない満足感に浸りました。その後、国宮・県営かん排事業と並行して各種事業が行われ、五十三年からこれまでに九土地改良区の吸収合併がなされました。

空に鳴り響いた雅楽の音色に水を愛し土を肥やし続けた多くの方々の心情を思うと土地改良事業の重要性・必要性を強く実感する

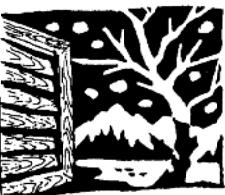
必要性を強く感じて、未熟なから農業發展の一端に携わるものとして思いを新たに責任の重さを痛感し、改良区職員としての自覚に一層拍車がかけられたのもこの頃だったと思ひます。

土地を公共事業優先の立場から御協力いただいた各地権者の方々あっての「日中ひざわ湖」を決して忘れることがなく、これからもより多くの方々との出逢いを大切に常に責任と誇りを持ち、土地改良区の歩みと共に年輪を増やし続けて参りたいと思います。

これまで勤めて来れたのは、公私

五十八年十一月新事務所が完成し  
新たな気構えで取り組み、五十九年  
から翌年にかけて国営・県営事業計  
画変更に伴う同意取りが行われまし  
た。五十九年四月家庭においては二  
人三脚の生活が始まったものの、今  
一番悔やまれるのは結婚後一ヶ月目  
にして帰らぬ人となつた父に、初孫

にわたっての暖かい励ましと御指導  
下さいました諸先輩の皆様をはじめ、  
役員の方々、そしていろんな事業・  
式典をとおし多くの関係機関の方々  
と接する機会を得るできました事に  
深く感謝し厚く御礼申し上げたいと  
思います。これからもよろしくお願  
い致します。



# 土地改良区と自分

戸ノ口堰土地改良区  
鎌木誠智

新年明けましておめでとうござります。

「を管理する」それが本来の仕事だと教えられ、水門や水路を覚えるため

『むつみ』に原稿の依頼を受け、うれしく思いつつも何を書いてよいか悩み日にちが経つにつれあせりながらまとまらないまま書いてみました。私が土地改良区にお世話になったのは昭和四十九年でその時は河東町土壌改良区に籍を置いておりその頃の河東町はば場整備の最中でした。入った頃は平板測量や道水路に延長測つ

現場歩きから始まりましたが戸ノ口堰の区域は河東町八田の一部と会津若松市内、湯川村の一部にまたがつており簡単に覚えられるものではありません。当改良区は水源を猪苗代湖に求め市内を通って湯川村まで水を通水しています。大雨や台風などがあればそれはひどく神経を使います。夜中でも水門調整など時間など

の存在を伝えられなかつたことです。  
いよいよ平成二年一月からは日中ダムも試験湛水に入り、豊かな緑と美しい自然の中で本来の目的を維持しつつ多くの方々に喜ばれ憩いの場としての「日中ひざわ湖」が誕生し、三年十月には世紀の大事業国营会津北部農業水利事業の完工式が盛大に挙行され、事業着手から二十年の歳月と巨費をかけ完成致しました。着手以来今日まで事業の推進に御尽力された関係者をはじめ、先祖伝来の

た。そしてやっと自分でも設計を組み一つの地区を任されるようになりますが、昭和六十年に今の戸ノ口堰土地改良区に移り現在に至っています。河東町土地改良区にいた時も災害にあってもさほど気にとめていませんでしたが今この事務所は「水

# 土地改良区の歩みと共に

会津北部土地改良区  
須藤 真代

会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。輝かしい新年をお迎えのこととご察し申し上げます。

さて、私も『年男』としての三度目の正月を迎えたわけですが、振り返るとその都度懐かしい人生の節があつたようを感じられます。

一度目は、大人扱いされる十一才。私は背丈が小さかった（今は標準）ので子供料金でも通用しそうなもので、もつたない思つたものでした。でも、中学生となりツメ衿の制服を着たときの緊張感は、今でも鮮明に覚えています。高度成長期の中で、カラーテレビに自家用車等が家に入り、タイガースの「花の首飾り」ブルドーザが水田のほ場整備に爆音を響かせていましたが、人生を左右する一場面だったと思います。

二度目はいわゆる『結婚適齢期』の二十四才。誰でもがとおる人生の過ぎましたが、今でも親の前でタタミに正座し、頭を下げ結婚を許してもらおうとした姿を想い出すと背筋がピーンと張ってきます。努力が報われ長女が家に戻ってくれ一件落着となつたわけですが、人生を左右する一場面だったと思います。

平成四年。三度目を迎えたわけで、年齢的にも社会人としても中堅となり、心新たに新年を迎えました。『日光ナル軍団』が脚光を浴びてのサル年。訓練というか教えないのか、言葉の通じないサルへの心と愛とムチは、何か今の世相と共に通ずるようを感じ取れます。言葉では通じない（理解されない）相手に、何が一番必要なのかということが。

これまで勤めて来れたのは、公私にわたっての暖かい励ましと御指導下さいました諸先輩の皆様をはじめ、役員の方々、そしていろんな事業・式典をとおし多くの関係機関の方々と接する機会を得るできました事に深く感謝し厚く御礼申し上げたいと思ひます。これからもよろしくお願ひ致します。

いよいよ平成二年一月からは日中ダムも試験湛水入り、豊かな緑と美しい自然の中で本来の目的を維持しつつ多くの方々に喜ばれ憩いの場としての「日中ひざわ湖」が誕生しました。着工以来今日まで事業の推進に御尽力された関係者をはじめ、先祖伝來のバラ色の時期。私もその真っ只中にいまして、女三人姉妹の最後の「トリデ」と恋愛中で、結婚できるかはたまた破局かと、村内でも話題になりましたが、「東ちづる」と肩を並べたカモ？。あれから十年以上の歳月が過ぎましたが、今でも親の前でタタミに正座し、頭を下げ結婚を許してもらおうとした姿を想い出すと背筋がピーンと張ってきます。努力が報われ長女が家に戻ってくれ一件落着となつたわけですが、人生を左右する一場面だったと思います。

平成四年。三度目を迎えたわけで、年齢的にも社会人としても中堅となり、心新たに新年を迎えました。『日光ナル軍団』が脚光を浴びてのサル年。訓練というか教えないのか、言葉の通じないサルへの心と愛とムチは、何か今の世相と共に通ずるようを感じ取れます。言葉では通じない（理解されない）相手に、何が一番必要なのかということが。

土地を公共事業優先の立場から御協力いただいた各地権者の方々あっての「日中ひざわ湖」を決して忘れることがなく、これからもより多くの方々との出逢いを大切に常に責任と誇りを持ち、土地改良区の歩みと共に年輪を増やし続けて参りたいと思いま

空に鳴り響いた雅楽の音色に水を愛し土を肥やし続けた多くの方々の心情を思うと土地改良事業の重要性・必要性を強く感じつつ、未熟ながらも農業発展の一端に携わるものとして思いを新たに責任の重さを痛感し、改良区職員としての自覚に一層拍車がかけられたのもこの頃だったと思

います。

五十八年十一月新事務所が完成し新たな構造で取り組み、五十九年から翌年にかけて国営・県営事業計画変更に伴う同意取りが行われました。五十九年四月家庭においては二人三脚の生活が始まったものの、今一番悔やまれるのは結婚後一ヶ月目にして帰らぬ人となった父に、初孫の存在を伝えられなかつたことです。いよいよ平成二年一月からは日中ダムも試験湛水入り、豊かな緑と美しい自然の中で本来の目的を維持しつつ多くの方々に喜ばれ憩いの場としての「日中ひざわ湖」が誕生しました。着工以来今日まで事業の推進に御尽力された関係者をはじめ、先祖伝來の

機関紙「むつみ」の寄稿依頼文書を頂いた時は、以前十年勤続受賞者としての所感を述べ寄稿したこともあり、すっかり安心しきっていましたので、折り込まれた原稿用紙を見たときは、悪い予感におののぎながら拌見したのでした。何をどう書きまとめて期限は刻々と迫り「忙しいから。いろいろあって。」とでも弁明してもお断りすればそれまででしようが、なぜかいつまでも「年女」の私にとって過去を振り返り自己を見つめ直す好機会を再度お与えいただけたと思えば、これも「年女」の私にとって飛躍の年になるのではとほのかな期待にも似た思いをよせ、改めて機関紙「むつみ」に深く感謝しているところです。

五十六年十一月の定礎式、晚秋の

土地改良区と自分

戸ノ口堰土地改良区 鈴木誠智

新年明けましておめでとうござい

ます。

「むつみ」に原稿の依頼を受け、うれしく思いつつも何を書いてよいか悩み日いちが経つにつれあせりながらまとまらないまま書いてみました。私が土地改良区にお世話をなったのは昭和四十九年でその時は河東町土地改良区に籍を置いておりその頃の河東町はほ場整備の最中でした。入った頃は平板測量や道水路に延長測つたり楽なものでした。そして二年、三年と年数が経つにつれ部落受益者と話しをすることが多くなり土地改良の仕事のむずかしさ、人間関係のむずかしさ等いろいろ教えられました。そしてやっと自分で設計を組み一つの地区を任されるようになりましたが、昭和六十年に今戸ノ口堰土地改良区に移り現在に至つておられます。河東町土地改良区にいた時は災害にあってもさほど気とめていませんでしたが今の事務所は「水

通水しているからかも知れません。おかげで日照り続きで水不足に頭を痛めるということはほとんどあります。せんので管理する上ではとても楽です。私は区画整理事業主体の所から水管路主体の改良区と二つの違った改良区にお世話になり、思うことは

おかれで日照り続きで水不足に頭を痛めるということはほとんどあります。

どちらも農家受益者と親密な関係にあり大切な仕事だということです。昨年は天候不順等で農家の人たちには大変な年でした。今年は申年です。私の年です。昨年以上に飛躍した年でありたい農家の人たちとの人間関係を大切に土地改良事業に努めたい。

## 出会い

### 会津富川土地改良区 林 出 豊 信

新年明けまして、おめでとうござ

います。平成四年も静かに明け穏やかな新年をお迎えの事とお慶び申し上げます。

本年は申年でございまして、私も早三回目の年男となるわけです。十二才や二十四才の頃に三十六才といえばもう大先輩であり、世の中のことは全て承知している、大きくて立派な人達だという畏敬の感を持つていたようになりますが、いざ自分がその年になつてみると、あの頃持っていたシメージどおりにはいかず、年齢には己れが幼稚さに、ただ恥じ入るばかりで、もっと頑張らねば住み良い村づくりは一人で創り上げ

と思うのです。

話は変わりまして、三十六年間生きてきて、一体何人の人達との新しい出会いがあつたのかを考えてみました。先ず家族から始まって、親戚、恩師、同級生、友人、先輩等々、ただ単純に一日の一人ずつの新しい出会いがあったとして、三十六年目で会いがある。一日に一人ずつ新しい出会いがあつたとして、一三、一四九人になる。一日に二人ずつの新しい出会いがあつたとして、二六、二九八人になる。一日に五人の人に会えば一三一、四九〇人に、一億人の人という日本人のほとんど

の人に会う事になるなどと、つまらない計算をしてもしようがないが、大体一万人くらいの人とは出会っているかと思います。しかし、全ての出来事を思い起す事ができ、又、どのまで出掛かっているのになかなか思

## 所感の一端

### 相馬市土地改良区 今野宗夫

新年あけましておめでとうござい

ます。

「歳月流转の如し」と申しますが、歳月の流れは早いもので、十干十二支還暦の申歳を迎える私ですが、改めて自分が歩んだ人生を振り返ってみると社会人の一員として仲間入りしてから四十周年特に是非もなく平々凡々とした途を歩んできた気がします。ただ恵まれたことは親から貰つた健康な身体があつたからこそと今更ながら親に感謝しておりますが、それもさることながら職場や近隣近

辺に良き友人、先輩が居てくれたお陰で今日の社会を歩んで来られたものと深く感謝しております。平成二年春に市職員を退職し現在市土地改良区に勤務させていただいているが、これも良き先輩や良き指導者のお導きと深く感謝しておる次第であります。

今農業農村をとりまく情勢は非常に難しいものがあり日本農業だけを考えただけでは生きられなくなりました。世界の情勢をふまえての施策が必要であり、だからこそ土地改良

事業が必要と思います。農村環境の整備を軸とする農地の集団化を図り省力化にむけた経営が不可欠であり二十一世紀に向けて農業経営確立を実現のため地域の特殊性適合性を昧した指導者育成とやる気のある集団育成が必要でありリーダーシップを發揮できる集合体形成を創成することが今後の課題と考えられます。

いずれにしても地域農業を豊かで住み良い村づくりは一人で創り上げ

られるものではありません。地域の人々が機会あるごとに会話を重ね、地域に見合よいものを出し合って、将来に向けて悔いのない農業農村整備事業を推進し完成させる日途が前述したい所存であり、申歳にあたり所感の一端を申し上げさせて頂きました。なお今後も更なるご指導ご教示を下さいますようお願い申し上げますと共に皆様方のご多幸を心よりご祈念申し上げます。

今日の水稻栽培技術はめざましく、单収の増加は順調に伸びている。反面、コメの需要量は、年々減少の一途をたどり、コメの生産調整が拡大され、あまつさえコメの輸入自由化がとりざたされる。

これからコメは、消費者のニーズに応えられる、うまいコメづくりを要求される。そのためには、生産性の高い農業基盤の造成が必須条件であり、農業後継者が希望を持つて

農業を営み、そして快適な生活ができる、好んでお嫁さんが来る農村を創るために、我々は、益々見聞を広め、新しい感覚で村づくりをしなければならないと思うのであります。

最後に、昭和元年からのコメの変遷を挙げます。コメの厳しい状況を再認識し、コメそして二十一世紀の農業農村発展のため、更なる努力をしなければと決意を新たにしているところであります。

朝食は、ごはんと味噌汁。  
昼食は、仕出し屋弁当。  
夜は、他用途米にて日夜?コメの需要拡大に貢献しております。

昼食は、出張以外は仕出しの弁当(四〇〇円也)にしている。この仕出し屋さん時々届くのが遅い。さんざん待たされるから美味しく見える。「世の中で一番の調味料は飴えである」と言った料理研究家が居たとか!(仕出し屋さん失礼)

## 土地連景井仁志



いずれにせよ、この値段でありわがままは言えない。でも、ごはんが温かなのが何よりの御馳走です。(仕出し屋さんに感謝)

夜は、殆どごはんは食べません。他の用途米利用の飲物、小麦を原料とする、本宮町にある東洋一といわれる工場産の飲物、或いは、数年前「くまそ」と言って物議をかもした某会社に代表される飲物にて、毎日水田農業确立対策事業に寄与しております。

い出せないで何かの拍子に思い出すときもあり、つくづくと自分の頭の悪さを思い知らされるものです。また、それはそれとして、これから先はいかないまでも出会いを大切に、思い出をたくさん作っていきたいと、毎年年賀状を書きながら思つのです。

の人に会う事になるなどと、つまらない計算をしてもしようがないが、大体一万人くらいの人とは出会っているかと思います。しかし、全ての方を思い出す事は、私の頭では残念ながら出来ませんが、何人かの人との楽しい、時には辛い、懐かしい出来事を思い起す事ができ、又、のどまで出掛けているのになかなか思

とおりであります。ときもあり、つくづくと自分の頭の悪さを思い知らされるものです。また、それはそれとして、これから先はいかないまでも出会いを大切に、思い出をたくさん作っていきたいと、毎年年賀状を書きながら思つのです。

命に大きな差があるのは何故だろうと考えるときがある。体力も運動量も食事の量も男の方が優っていると思うのであるが、女より長生きできないのは何故なのだろう。今では考えられないことであるが、昔の大飢餓では餓死する人が多かったという、そのなかで何故か生き延びるのは女だったと親父から聞いたことがある。また、男には瞬発力はあっても、耐久力は女の方があると思われるところがある。若い頃のことであったが、女寒い冬の日に大根洗いをしたことがある、水の冷たさに男はいくら頑張っても一時間しか続かなかったが、女

時代に逆戻りである。

長女は郡山に世帯を持ち亭主と二人で働いている。子供は一人、四才の男の子と一才半になる女の子がいる。今が一番子供に手がかかり一時も目が離せない。まさに二十四時間気が休まる時がないようだ。特に子供が病気の時は大変で、その度に疲れ切って妻に応援を求めてくる。妻は娘の頼みでもあるが孫に逢うのが楽しみで二つ返事で出かけてゆく。親とは因果なものだ。いつまでも子供に脛を噛られる。今回も御多分に洩れず暮れの二十六日に孫娘の具合が悪いとのことで、応援に出かけた

「娘と豆台風」

土地連佐藤嘉則

心に喜んでいた。思ひ事に、ついで  
ところで、「還暦」を辞典で調べ  
てみると、「数え年六十一歳のこと。  
また、その長寿の祝い」とある。  
いチャンチャンコを家族から着せ  
もらい、長寿のお祝いをしてもら  
のが慣習のようであるが、私には  
どうしても、そんな気分にはなれ

早いものです、福島県土地改良事業団体連合会に勤務して、三度目の申年を迎えるました。その間、色々な事がありました。そのひとつひとつが懐かしく、かつ鮮明に思い出されます。しかし外を見ますとこの数年の間に目が離せない早さで世界情勢が変化していきました。

ベルリンの壁が撤去され、東西ドイツの統合から、アメリカと世界を二分していた超大国ソビエト連邦共産主義国家の崩壊、想像も出来ないことがあいついで起り、世界中を驚かせました。一方では多国籍軍といらク軍による湾岸戦争、近代兵器総出演、テレビゲームを見ていくような錯覚にとらわれたほどです（どのような事があっても戦争は決してはならない）。またそれに平行して世界経済は停滞し、特にアメリカ経済はひどく車、コンピューター等の技術開発に遅れをとり大きく後退しました。

国内において日本経済は大きく發展をなし、その伸びはとどまるところを知らないほど繁栄をした。そのため世界各国より日本の貿易黒字対策を強固に迫られ、政府は苦境に立たされその打開策のひとつとして農産物の一部自由化を余儀なくされました。その結果弱者農家は農業に対する情熱が薄らぎ後継者の農業離れの大きな原因となつたのであります。私は農業と経済等の問題は別問題であると思っています。どこの国でも食糧は自給自足が原則であり、それを確たる物に築き上げ、その基盤の上に経済産業が成り立つのではないかと私は確信しております。そのためには少ない農地を有効的に活用させることの総合的な土地基盤整備の早期完成が望ましいと思われます。私は日本の農業発展に貢献する、と言えばオーバーな話と受け取られるかも知れませんが、福島県内の農地が一〇〇%三〇アール以上に区画整

最後にこれから農業は、國を中  
心にしてしまがたいと思つておられます

## 還暦で思うこと

土地連鎖原昭治

# 平成四年、 申年を向かえて私の抱負

理が完成し、多目的な耕地の高度利用が可能となる日まで農家の皆様とは勿論のこと農業に関係するすべての方々と共に、魅力ある農地の基盤造に、土地連職員としての役割を果たしていきたいと思っております。

心として、県、各市町村および各土地改良区、そして土地連が一体となって知恵を絞り、町造り村造りと併合できる土地基盤整備の計画が求められるところであり、農業政策の大きな転換期であると推測されます。

我が家に機嫌を伺いに来ては食料品等を車に積んで帰つて行く。妻から見れば娘は何才になつても娘なのだろう、スーパーに行つてはイッパイ食糧品等を買って来てはあれこれ説明し娘に持たせてやる。

十二月二十八日に妻は郡山から娘と豆台風を連れて帰つて来た。この豆台風大型になつたり小型になつたり、その日から我が家は湾岸戦争さながらである。私は只管この豆台風が無事通過するのをジッと堪えるしかない。吹き荒れた豆台風も正月六日に沢山のお土産を持ち溢れるような笑顔を残して帰つて行つた。

ある時、私は、娘にお父さんは「娘と孫どちらが可愛い」かと眞面目に聞かれたことがある。私は即座に、それは「娘に決まつている」と答えたが、娘にはどうも納得がいかないらしい。娘の友人連中はどうも孫の方が可愛いなんて言つている人の方が多いらしい。そうだとするとと私の方が間違つているのかな、私はどうも世間の人達の方が間違つているとしか思えない。大体娘と孫との付き合いの度合いから考へたつて判りそうなものである。第一娘は自分の子供で私の血液が五十分セ

と書いてあつた。

人生の先輩を、オジン、オバンと言つるのはどうか、オジサン、オバサンと言つう敬老の気持ちを忘れてはいなか、敬老とは失礼かも知りませ

ントも含まれており（孫は二十五パーセント）生れてから苦しい時、樂しい時、嬉しい時と二十年以上もそれこそ手塙にかけて育ててきたものである。その可愛さの中には、愛情があつており、孫の唯單に幼稚で可愛いと

幾重にも幾重にも積み重なつて入つてある。その可愛さの中には、愛情があつており、孫の唯單に幼稚で可愛いと

いうのは比較になんかなるはずがない。

郡山の豆台風が去つた後、妻は疲れ切つて風邪をひき体調を崩してしまつたが、最近ようやく回復し我が家での生活のリズムもようやく平常どおりとなつた。台風は忘れた頃にやって来る。現在わたしたちの体調も良好だ、いつでも豆台風を迎えうつ準備は整つてゐる。私達夫婦は過ぎ去つた豆台風の被害を忘れ、またまた来襲されるのを心待ちしているのかも知れない。



# 壬申の年に

事務局 大島 孫三郎

この年は大乱の年などと言われる。そうだが、近くではフィリピンの大統領選挙がある、アメリカ亡命から内に予定されている。

そして米国、先日のフッシュ大統領の来日を秋に向けての再選の一環と受け取つた人も多かつたと思う。

宮沢内閣にしても、身内からの共和リゾート汚職の広がりもさることながら、夏の参議院選挙が気になるところ、元気印の女性、オバタリアンの力を借りては、それに反してオジタリアンはどうか、仕事一筋にまじめなのが意氣の上がらない存在のようだ。

ギャルの間でささやかれている言葉に「オジサン恥をカキクケコとう。格好悪いの「カ」に始まって、汚い、口を出す、毛が薄い、厚顔無恥とくる、男性の女性化が進んでい

ると聞く、ギャルの格好したオジン前、今は身の回りのことも出来ず女房にまとわりつく「ぬれ落葉族」とか、室内での喫煙を妻や娘にたしなめられベランダで煙草を吸う「ホタル族」、これもオバタリアンの仕打ちか、何時だったか何かの記事でみたオバタリアンのカルテは、髪につけられて肌が荒れ、金歯で首輪を着け、地獄耳で便秘、すぐにムキになる、モノにこだわる、人の迷惑を考えない、息子の体育ジャージを履く、その反面困っている人をほつとけない、いい加減を嫌う、不公平を許さない

## 県外研修

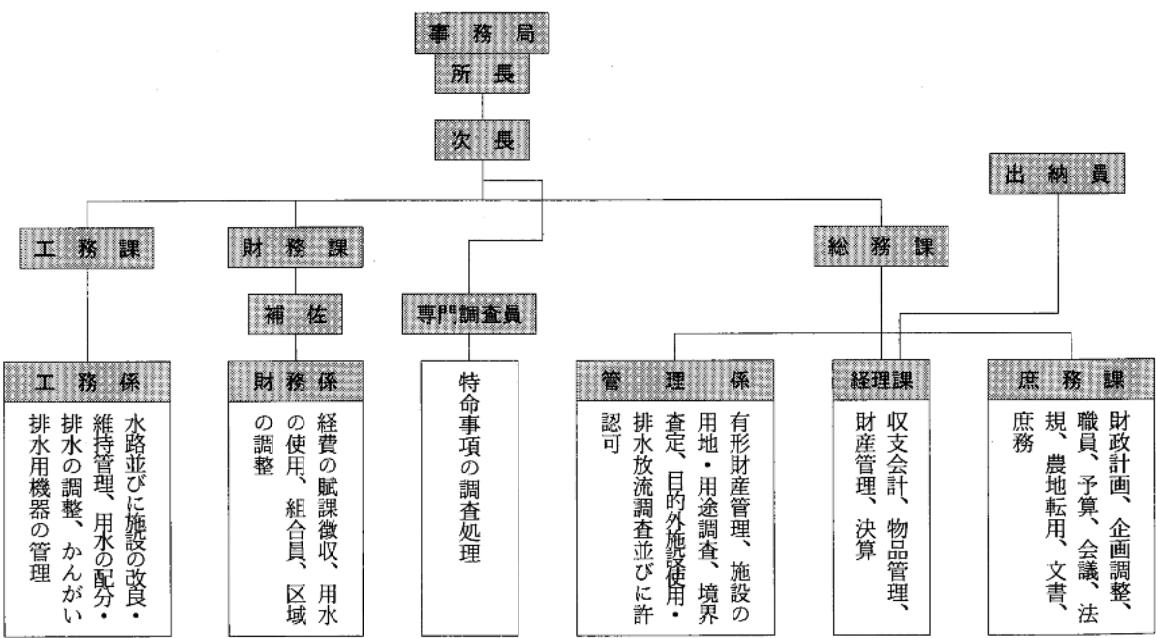
本年度の県外研修は去る十一月六、七日の両日絶好の秋晴れに恵まれ土地連を八時出発しましたが、遠路参加された会員には本当に御苦労様でした。途中松川町、安達町、郡山駅前から乗車、総勢四十名が埼玉県羽生市の羽生領用悪水路土地改良区に伺いました。昨年の反省から車内での中食はどうも結構でないとご意見もありましたのでドライブインに立ち寄ることとしました。

研修地の土地改良区の所在が地理で不案内のためドライブインまで土地改良区総務課長のお迎えを頂き恐縮いたしました。午後一時十分より土地改良区会議室において研修を行いました。始めに野中理事長の歓迎の挨拶があり続いて当協議会佐原会長が挨拶の後羽生領用悪水路土地改良区馬場所長の司会で研修が進められました。

翌日竹久夢二記念館、水沢観音、太平記オープンセット等を観光して帰路についた。



## 土地改良区事務局機構



— 13 —

一方、土地改良事業に要した経費の償還問題についても類似した問題が含まれている。水稻の生産調整にみられるように土地改良により土地生産性は高くなってしまって農業生産全体としては農作物の価格の動きとも関係するが、このところ停滞気味であるところからみれば、参加農家の賦課金の償還力はむしろ低下してきていると言わざるを得ないし、この面でも公共的助成措置を望む声が強まっているゆえんである。

第2にあげることは、土地改良区の業務推進体制の問題である。前述したように、土地改良区は大小様々である。地域によっては既に有名無実化した土地改良区は整理するなり、統合するなり、それなりの合理化を進めている実態はあるが、依然として小規模の土地改良区がかなり存在している事実に今後どのように合併等統合を進めていくかということである。

最近の農業・農村をめぐる状況から農家の土地改良事業への意欲が低下してきており、並行して脆弱化してきている土地改良区の組織、運営基盤を強化するためには、どのような組織単位、規模にもっていくべきかということである。

しかし、この問題にはいくつかの隘路がある。すなわち、役職員の待遇、財産や賦課金の格差、地域の感情などである。しかしながら、各土地改良区は全く現在のままで良いとは考えておらず合併統合の必要は認めているところであるが、個別事情となった場合、現実的になかなか難しい問題を含んでいる。

第3に土地改良事業の今後の展望をどのように切り開いていくかということである。運営基盤から搖らぎはじめている土地改良区が当然果たすべき役割までを市町村等に依存している実態があり、このような傾向は今後もさらに強まるのではないかとみられる。

これまでの土地改良区の事業推進には地域として高い評価が与えられ、かつ、今後に期待されている面があることは事実として受けとめ、基本的には土地改良区の担当すべき部分は維持すべきであろう。むしろ本来の事業全体を担当し前向きに事業推進にあたりたいとの意欲は土地改良区自体には認められるが、このことは現実的にはかなり厳しい実態があり、助成に期待をかけながらという色彩があることは否めない。

このような現状を開拓するため、中央に専門者からなる検討委員会を設けるべきとの意見も出されているように、今後の土地改良区のあり方については現状を踏まえたうえで議論し展望を見いだすよう、今回のアンケート調査に期待が込められている。

第4に、土地改良事業の地域性の問題である。土地改良事業はどうしてもその対策が水田主流になりがちであるが、全国有数の畑作地帯にあっては畑かん事業もかなり以前から進められている。

そこで水田主作地帯は米の生産調整を進める過程の中でいろいろな歪みが出てきている。例えば、転作のやり方によっては水の管理を非常に複雑なものにしており、また、賦課金の徴収にまでこの問題は発展する要素を抱えている。

この水田主作地帯にあっては、将来性に対する不安とも重なって土地改良事業の今後の進め方をめぐって悩んでいると言えよう。

一方、都市近郊地帯は兼業化、都市化が一段と進んでいる地帯であるだけに土地改良事業が抱えている問題がよりシビアに影響してきていると言えよう。割り切って考えるならば、事業内容が極めて公的にしかならざるを得ないのであるならば、事業を農業面のみでの対応を図ろうとしても無理がくるようにも考えられるので、当該地域全体として、どう対応するかということになり、そのような傾向が、これまで事業が完了した後の賦課金問題にまで跳ね返ることになっているように見られる。地価問題ともからんで難

## 「土地改良区対策に関するアンケート調査」 結 果 報 告 書

### はじめに

日本農業の生産基盤である農地の土地改良・保全を各地域にあって長年にわたって担当してきた土地改良区の現在おかれている状況と現状における問題点、さらには今後の展望等、多項目にわたるアンケートの結果を取りまとめた。

設問は10問あり、各道府県の土地改良事業団体連合会の専務理事に回答していただいた。回答の内容は回答者がその管内の実情を把握して書かれたものと考えられ、実態に即した貴重な意見を数多くいただいた。回答者各位に対して敬意を表するものである。

設問別とりまとめは、他の設問に重複して述べられているような部分はできるだけ、当該設問の内容に即した回答内容を優先してとりあげて整理した。したがって、同様の趣旨の内容は設問に合致する箇所で取り上げており、整理の対象として取り上げられた件はテーマの代表的なものである。

### 1. 総論として

今回の土地改良区対策に関するアンケートは大きく5項目から構成され、前3項目は更に2~3のテーマ毎に細分化され、全体で10個の設問となっている。それぞれのテーマが相互に関連し合っていることもあって、回答内容が重複する場合もあり、設問全体を通じて回答内容の概要がどのようなものであったのかを要約して総論とする。

土地改良区はこれまで長年にわたり土地改良事業を推進させ、水稻の単位面積当たり収量の増加傾向が極めて顕著であることに表れているように、その実績の積み重ねを通じて各地域において高い評価を受けている。

しかし、一方で大は市町村の区域を越える広域的な土地改良区から、小は1市町村内に複数存置するといった土地改良区までバラエティに富んだ配置となっており、事業の推進能力の低下や組織構成の問題、賦課金の償還事務に関わる問題など現状はなかなか厳しい。

他方、農業・農村をめぐる情勢は今や大きく変化しつつあり、土地改良事業の進展は農作業の機械化を推進し、それがまた兼業化に拍車をかける結果となり、更に混住化、都市化の波は農村地帯にまで押し寄せ、土地改良事業に対してもいろいろな面で影響を及ぼしている。

以下、今回のアンケートの回答内容を要約する。

まず第1にあげることは、土地改良事業の内容が農道にしても用排水路にしても農業外の利用が一般化する傾向にあり、当該地域における公共的性格を帯びるに従って施設の維持管理が土地改良区のみで対応するのではなく、公共的性格の強さに応じて市町村等の地方自治体も当然それに参画するべきではないかとの議論に発展する。従来の基本線を守り土地改良区が全面的に担当するとしても、それなりに公共的負担があつて然るべきであり、それが助成という形であるにせよ支援という形にせよということになる。割り切った地域にあっては既に市町村にかなりの面にわたって依存してきている実態がみられる。

しい問題である。

第5に農地の流動化との関係である。農地の流動化は構造政策の一つの大きな柱として現在、利用増進事業等によって推進されているが、農地の利用調整は圃場整備なり水利調整との関わりが深いから、土地改良区が中心となってこれを進めたほうが円滑に進められるのではないか、との見解から出されている。今後の土地改良区の役割問題として、市町村農業委員会との問題があるが、検討に値しよう。

さて、この農地の流動化の問題と大きく関わっているのが有益費の扱いである。現行の土地改良制度における組合員資格と農地の所有者と賃借人との土地改良経費の負担問題は、今後の農地の流動化を大いに進展させようとすれば貸借双方の当事者の問題として処理するということが土地改良経費負担との関連でどうあるべきかということであろう。これは農地法、農用地利用増進法とも関連した問題である。

第6として、その他いくつかの問題をここで取り上げる。

1つには、土地改良事業の一般へのPRの問題である。土地改良区がこれまで遂行してきた事業が農業関係のみならず地域全体に及ぼしてきた効果が極めて大きいという実態が一般にあまり知られていない。今後、特に公的負担を得ることに期待しているのであれば、このような現状を一般に知らしめる必要があるとの意見が出されている。

2つには、末端施設の管理の問題である。その大部分のものは集落機能に依存しているが、混住化等によりこの集落機能が弱体化している実態にあることから、この集落機能の強化又はこれに代わる新たな組織作りが必要であるとの意見が多いものの、土地改良区の運営基盤が低下していることを反映してか土地改良区の直営管理方式はあまり考えていないようである。別案としては業務委託方式の提案も出されている。



## 県営ほ場整備事業相馬東部地区の概要

(2) 土地利用の状況											(単位: ha)		
面積	耕地						用材林	薪炭林	排水地	山原野	その他(道水路)	計	備考
	水田	普通畠	果樹園	桑園	茶園	その他樹園地							
210ha	178ha	-	6ha	-	-	-	-	-	26ha	-	210ha		

(3) 土地所有の状況							備考	
区分	所有別	個人有	部落有	市町村有	国県有	計	備考	
面積	191.2ha	-	-	0.7ha	18.2ha	210.1ha		
関係戸数	240戸	-	-	-	-	240戸		
筆者数	3,127筆	-	-	-	-	3,127筆		
権利関係	310名	-	-	-	-	310名		

## 2. 道路現況

本地区の地区外で南北に国道6号線が走り、この国道より東西に県道原町・海老相馬線が地区南端を、市道百瀬・和田線が北端を走り、この2路線を結ぶ市道日下石・石上線が地区西側を走り基幹道路として利用されている。しかし、地区内の農道は幅員が狭小であり、農業機械の運行及び農産物の搬入・搬出に支障をきたしている。

番号	路線名	管理区分別	延長	巾員		構造	改修の要否	備考
				全	巾			
1	国道6号線	国	-m	9.5m	6.3m	アスファルト舗装	否	
2	県道坂町・海老相馬線	福島県	27,241	4.5	3.5	"	要	現在一部改修中
3	市道百瀬・和田線	相馬市	6,636	7.0	5.5	"	否	
4	市道日下石・石上線	"	9,571	7.0	5.5	"	"	

## 3. 地域農業の概要

## (1) 経営農用地広狭別農家数及び耕地の分散状況ならびに専兼業別農家数

区分	農家総戸数	経営耕地広狭別農家数(戸)						1戸当平均農用地面積(ha)			耕地面積の分散状況		専兼業別農家数(戸)					
		0.3	0.3	0.5	1.0	1.5	2.0	3.0	5.0	例外規定の適用を受けるもの	田	畠	樹園地	小	草	計		
		ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	以上	田	畠	樹園地	小	草	計		
相馬市	2,723	301	280	554	460	396	451	230	48	3	1.2	0.1	0.1	1.4	0.1	1.5		
比率%	100	11.1	10.3	20.3	16.9	14.5	16.6	8.4	1.8	0.1	80	7	7	94	6	100		
		未満	0.5	1.0	1.5	2.0	3.0	5.0	以上					6	9a	223	723	1,777

## (2) 動力農機具及び家畜頭数

項目	動力農機具						主要家畜						備考			
	耕うん機	トラクター	コンバイン	田植機	乳用牛	肉用牛	豚	にわとり	計	備考						
	台数	台数	台数	台数	頭数	頭数	頭数	頭数	頭数	頭数	頭数	頭数				
相馬市	1,208	2,723	1,814	2,707	807	2,690	1,721	2,723	1,082	60	1,218	152	2,266	15	43,519	89
100台当数量	44	67	30	63	1,803	801	15,107	48,398								
利用台数の割合	100%	99%	99%	100%	2%	6%	1%	3%								

## I. 事業の概要

## 1. 事業の目的

本地区は相馬市の東部に位置し、二級河川宇多川の右岸で松川浦に面した区域に展開する水田地帯である。地区内の耕地の形状は10aに整備されているものの分散が多い上、農道は狭小であり、水路は用排水兼用であり、農業生産基盤としてのほ場条件は極めて低い状況での農業經營が行なわれている。

本事業計画により区画整理は勿論、用排水路網、道路網を整備し土地の集団化と利用増進を図り、大型農業機械の導入による労力の節減、近代的農業經營の合理化を進め農業構造の改善と地域農業の育成を図るものである。

## 2. 地域及び地積

## (1) 地域 福島県相馬市

## (2) 地積

市町村	現況地目	田	畠	原野	山林	樹園地	道水路敷	計	備考
相馬市	178	6	-	-	26	210			
計	178	6	-	-	26	210			

## (3) 事業別面積

事業名	ほ場整備					排水特					計	備考
土地利用区分	旧田	新規田(耕田)	輪換耕地	普通畠	樹園地	その他	田	輪換耕地	普通畠	樹園地	その他	
区画整理	-	-	178	6	-	-	-	-	(178)	-	-	184
暗渠排水	-	-	(83)	(2)	-	-	-	-	-	-	-	(85)
客土	-	-	(137)	(3)	-	-	-	-	-	-	-	(140)
計	-	-	178	6	-	-	-	-	(178)	-	-	184

## II. 地区の現況

## 1. 土地状況

## (1) 地形、土壤及び浸蝕の程度

地目	田 (ha)						畠 その他の (ha)						受益地標高 (m)		備考
	1000以下	1000~100	100~20	20~11.5	11.5以上	計	3°以下	3°~8°	8°~15°	15°~20°	20°以上	計	最高	最低	
面積	178.4	-	-	-	-	178.4	5.9	-	-	-	-	5.9	3.8	0.1	
比率%	100	-	-	-	-	100	100	-	-	-	-	100	-	-	

市町村名	土壌区分	計面積	土壌断面				現況有効耕作面積	耕作土深	耕作排水	客土	要因項目	数量	位置	埋込深	備考
土性	グライ層位	泥炭層位	黒褐色層位												




<tbl\_r cells="16" ix="4" maxcspan="1" maxrspan="1" used



## 5. 道路計画

### (1) 道路及び県道

種別	項目	全幅(有効幅)×延長(m)	構造	既設道路との関係	備考
支線道路		4.0(3.0)×18,019	砂 石	県道及び市道に取付ける	

# 編集子

会員の皆様あけましておめでとうございます。好天に恵まれたお正月に新しい希望を胸に飛躍の年を迎えたことでしょう。

例年のことながら今年の干支に因み会員三十八名に寄稿をお願いしました。新しい試みとして、一切督促をしないで締切日（一月十八日）までに寄稿された会員のみの編集に心がけました。編集する者の心情を察して頂き、暖かい寄稿も数多く本当にありがとうございました。

書くことが苦手とおっしゃる会員、何時かの機関紙「むつみ」でも書いたような気がしますが、誰もが作文することはとても大変なこと、察しております。折角の機会に日頃考えておられることを紙上で発表されることも有意義ではないでしょうか・・・・・

ご迷惑とは存じましたが、永年勤続職員としての抱負、弔年としての抱負と一度も寄稿を頂いた、伊藤さん、佐藤さん、須藤さん、緑川さん、ありがとうございました。今後共よろしくお願ひします。

県内土地改良区の資料をお願いしておりますが未着分もあり集計が間に合いませんので後日お送りしたいと考えております。

今、土地改良区の対策が農水省等で種々検討されていることから、全国の土地連責任者によるアンケート調査結果を掲載しましたので参考にしてください。

年に一度の会員名簿です、間違いがありましたら事務局まで申し出でください。昨年から自宅の電話番号も掲載しました。色々の面で活用して親睦の輪を広げて頂ければ幸に存じます。